

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2008～2009
 課題番号：20791717
 研究課題名（和文）放射線治療を受ける口腔癌患者の食思傾向を判断するオーラルアセスメントツールの開発
 研究課題名（英文）The development of oral assessment tool judging diet of for patients with oral cancer receiving radiation therapy
 研究代表者
 大釜 徳政 (OGAMA NORIMASA)
 関西福祉大学・看護学部・准教授
 研究者番号：50382247

研究成果の概要（和文）：2008年度の調査では、オーラルアセスメントツールを構成する質問項目を検討するため構造方程式モデリングを行い、28項目からなる5段階評価スケールを作成した。この結果をふまえて、2009年度の調査は、208名の口腔癌患者を対象として、患者の食思傾向を判断するオーラルアセスメントツールの信頼性・妥当性を検証した。

研究成果の概要（英文）：I performed structure equation modeling to examine the question item which constituted an oral assessment tool by the investigation of 2008 and made five phases of evaluation scales consisting of 28 items. On the basis of this result, the investigation of 2009 intended for 208 oral cavity cancer patients and inspected reliability / the validity of the oral assessment tool which judged diet of the patient.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：放射線治療，口腔癌，食思傾向，オーラルアセスメントツール，有害事象

1. 研究開始当初の背景

放射線治療を受ける口腔癌患者の食思傾向に関する先行調査では、味覚変化・口腔内乾燥・疼痛といった有害事象と食思傾向との法

則性を加味したオーラルアセスメントツールの開発や基礎的研究はなされていない。そこで研究代表者は本研究において、放射線治

療を受けている期間中および治療後の口腔癌患者を対象として、味覚変化・口腔内乾燥・疼痛の多重的な変化プロセスと食思傾向との関係性を詳細に調査した上で、患者の食思傾向を簡便に判断するためのオーラルアセスメントツールを開発する必要があると考えた。

2. 研究の目的

(1) 累積照射線量別 (Gy) と治療後 7 日以内にみられる味覚変化・口腔内乾燥・疼痛の具体的症状の多重性とその変化プロセス、個人属性 (年齢、義歯装着の有無、喫煙の有無)、日内変動および患者の食思傾向といった項目間の関係性を因果モデルとして構築する (これを構造方程式モデリング [SEM: Structural Equation Modeling] を用いて検討する)。

(2) (1) の成果を踏まえ、患者の食思傾向を判断するためのオーラルアセスメントツールを開発し、その信頼性と妥当性を検討する。

3. 研究の方法

「研究の目的(1)」については、オーラルアセスメントツールを構成する質問項目を検討するため構造方程式モデリングを行い、評価スケールを作成する。「研究の目的(2)」については、オーラルアセスメントツールの信頼性を検証するために、対象者から得られた質問項目から構成される因子得点、合計得点の内的整合性 Cronbach' α 係数を求める。また妥当性については、構成概念妥当性、基準関連妥当性、各施設間、対象者の年齢、性別、喫煙の有無、義歯装着の有無別にオーラルアセスメントツール得点を比較し、施設間や対象特性にツールが影響されないことについて検証する。

4. 研究成果

2008 年度の調査では、オーラルアセスメン

トツールを構成する質問項目を検討するため構造方程式モデリングを行い、味覚感度に関する 6 項目、口腔内乾燥症状に関する 5 項目、口腔粘膜炎に関する 5 項目、喫煙に関する 3 項目、年齢に関する 2 項目、口腔ケアに関する 3 項目、唾液分泌量の日内変動に関する 2 項目、鎮痛剤の使用に関する 2 項目の 8 因子、28 項目からなる 5 段階評価スケールを作成した。この結果をふまえ、2009 年度の調査は、本邦の 208 名の口腔癌患者を対象として、患者の食思傾向を判断するオーラルアセスメントツールの信頼性・妥当性を検証した。まず 8 次元、28 項目の信頼性は、折半法で Spearman-Brown 法の公式により算出した信頼係数は 0.78 であり、アセスメントツールの信頼性が確認された。構成概念妥当性については、当初、仮説的概念を 8 因子にしていた。しかし、項目を除外していく中で因子的妥当性により適合するモデルが示唆され、最終的には 7 因子となった。基準関連妥当性については、オーラルアセスメントツール得点と Appetite Assessment Scale of Cancer (癌患者の食欲尺度 35 項目) 得点との相関係数を算出したところ、両者の総得点の間には総じて有意な正の相関が認められた。なお、各施設間、対象者の年齢、性別、喫煙の有無、義歯装着の有無別にアセスメントツール平均点を Mann-Whitney U test を用いて比較したところ、施設間や対象属性と得点間に有意な差は認められず、これによりアセスメントツールが施設間および対象属性から影響されないことが確認された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

① Ogama N, Fundamental Study of Taste

Alteration, Oral Cavity Response and Food Characteristics According to Radiation Therapy for Head and Neck Cancer Patients, Journal of Association of Pacific Rim Universities 9, 1-13, 2008, 査読有り

②江川幸二, 吉永喜久恵, 横内光子, 北川恵, 山本かよ, **大釜徳政**, 鷺田万帆, 医療機関における心疾患患者の家族を対象とした心肺脳蘇生法の指導に関する実態調査, 日本救急看護学会雑誌 9(3), 36-46, 2008, 査読有り

③**大釜 徳政**, 頭頸部がん患者における放射線治療に伴う有害事象の変化と食物特性・嗜好性の構造モデルの検証, 聖ルカ・ライフサイエンス研究所年報, 38-46, 2009, 査読無し

④**大釜徳政**, 鈴木純恵, 口腔がん患者における放射線治療に伴う有害事象とこれに適した食物特性, がん看護 4(3), 403-411, 2009, 査読有り

⑤Ogama N, Suzuki S, Umeshita K, Kobayashi T, Kaneko S, Kato Shimizu Y, Appetite and adverse effects associated with radiation therapy in patients with head and neck cancer, European Journal of Oncology Nursing, 14(1), 3-10, 2010, 査読有り

⑥**大釜徳政**, 片山知美, 放射線治療を受ける頭頸部がん患者の 20Gy の時期における食事に関する因果モデルの検討, ヒューマンケア研究学会雑誌, 1(1), 1-8, 2010, 査読有り

⑦**大釜 徳政**, **大釜信政**, 口腔がん患者における放射線療法に伴う感覚器系有害反応と食物特性に関する文献検討, ヒューマンケア研究学会雑誌, 1(1), 9-16, 2010, 査読有り

⑧大釜信政, **大釜徳政**, 日本におけるナース・プラクティショナーがもたらす医療変

革への期待, ヒューマンケア研究学会雑誌, 1(1), 29-34, 2010, 査読有り

⑨Ogama N., Suzuki S, Yasui Y, Azenishi K, Analysis of causal models of diet for patients with head and neck cancer receiving radiation therapy, European Journal of Oncology Nursing, in press, 査読有り

[学会発表] (計4件)

①**大釜 徳政**, 頭頸部がん患者における粒子線治療に伴う有害事象の変化と食事に関する因果モデルの検証, 第1回ヒューマンケア研究学会学術集会, 2009年9月23日, 兵庫県, 査読有り

②**大釜徳政**, 石橋徳子, 田中幸江, 大釜信政, 放射線治療を受ける頭頸部がん患者の食事に関する因果モデルの検討, 第24回日本がん看護学会学術集会, 2010年2月13日, 静岡県, 査読有り

③**大釜徳政**, 寺本泉, 舛田かをる, 村本洋子, 藤本美生, 頭頸部がん患者における粒子線治療に伴う有害事象と食欲に関する検討, 第24回日本がん看護学会学術集会, 2010年2月13日, 静岡県, 査読有り

④**大釜徳政**, 石橋徳子, 田中幸江, 大釜信政, 頭頸部がん患者における放射線治療に伴う有害事象と食欲に関する検討, 第24回日本がん看護学会学術集会, 2010年2月13日, 静岡県, 査読有り

[図書] (計2件)

①奥宮暁子, 金城利雄, 石川ふみよ, 結城美智子, 山本恵子, 諸伏悦子, 青木きよ子, 藤原正恵, 宮内康子, **大釜徳政**, 他14名, ナーシンググラフィカEX4「ピリテーション看護」, メディカ出版, 2009, 総ページ数290

②宮脇美保子, 八木弥生, 藤田八重子, 井原 緑, 足立みゆき, 宮林郁子, 谷 多江子, 桑田恵子, 大塚真代, 狩野太郎, **大釜徳政**, 新体系看護学全書13「臨床看護総論」, メヂカルフレンド社, 2010, 総ページ数394

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大釜 徳政 (OGAMA NORIMASA) 関西福祉大学・看護学部・准教授
研究者番号: 50382247

(2) 研究分担者
無し

(3) 連携研究者
無し